

めざす学校像
学ぶことが楽しい学校
共に生き、支え合う学校
地域から信頼される学校

めざす児童像
よく考え、豊かに表現する子
思いやりの心を持ち、助け合う子
健康で、ねばり強くやりとげる子

めざす教師像
深く子どもを愛する教師
常に切磋琢磨する教師
目標達成に向けて共に努力する教師

学校教育目標
自ら学び、心豊かに生きる児童の育成

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
能登町教育目標

児童の実態
学校の実態
地域の特性
保護者の願い

研究主題
**心豊かに生き生きと活動する子をめざして
～心の居場所を基盤とした課題解決学習～**

認め合う仲間づくり
共に生きる心を育てる

わかる楽しい授業づくり
自ら学ぶ意欲を育てる

心を開く自分づくり
安心できる場をつくる

学級の耕し
カウンセリングマインド
人として不易な生活習慣の徹底

基礎・基本の取り組み

朝自習 漢字・計算・百マス・読書
百マス強化週間（各学期）
チャレンジ漢字・チャレンジ計算（各年2回）
読書強化週間

少人数授業とTTの活用

3,5,6年生算数科～少人数授業
適切なコース選択と課題に応じた指導形態
習熟度別グループ・課題別グループ
1,2年生算数科～TT指導
単元全体を見通した課題づくり
児童の主體的活動や意欲の伸長

研究仮説

- 仮説 1** 課題解決学習を中心としたわかる楽しい授業づくりにつとめれば、
- ➡ 児童のやる気をうまく引き出し、わかる・できるという満足感・成就感が積み上げられ、生き生きと活動する児童が育つだろう。
- 仮説 2** 学級や縦割り班活動での仲間づくりを進めれば、
- ➡ 児童は自己存在感・自己肯定感を感じ、より心を安定させ、友だちと協力し、よりよい学級・学校をつくろうと積極的に活動していこう。
- 仮説 3** カウンセリングマインドを生かした支援を行い、安心して過ごせる場づくりに努めれば、
- ➡ 授業やさまざまな活動の場面において必要となるコミュニケーション能力が育ち心の成長がサポートされ、心の安定した児童が育つだろう。

組織的な課題解決学習

★ 課題解決単元計画

- ・ **単元をどうつかませるか。**
単元との出会いの段階の重視
- ・ **児童の意識をどうつかむか。**
次の時間が楽しみになる授業

★ 単元における基礎・基本

- ・ **どんな力をつけたいか。**
単元全体の見通し
- ・ **どうやってつけるか。**
単元の中心的概念、重点化・構造化

★ 授業展開

- ・ **主体性を育む工夫**
自ら課題を見つけ、発展させるステップ
- ・ **課題提示の工夫**
活動欲求、解決欲求を満たす課題、教材・教具
- ・ **練り上げの工夫**
学習形態、話し合い活動
- ・ **ふり返りの工夫**
課題の到達度、学びの姿勢の自己評価

★ 授業分析と指導法の工夫・改善

- ・ **自己評価と相互評価の活性化**
授業記録シート、授業整理会
- ・ **授業構成6項目の数値化**
導入、課題提示、練り上げ、評価、ふり返り
- ・ **個人テーマの設定と共有化**
年間・各時間の努力目標、相互点検

カウンセリングマインドを生かした

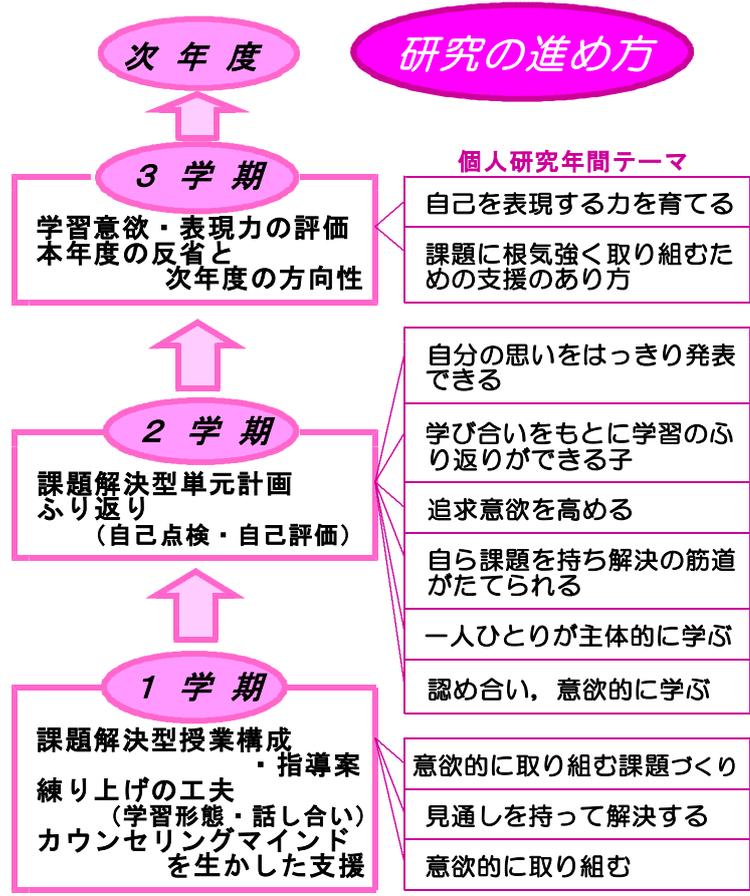
学習の支援

意欲を高め、解決に向かい、解決したことを広める手立て

視点1 児童と教師、児童どうしが互いのよさを認め合い、互いに尊重できるようにすること。（自己肯定感）

視点2 教師が児童の考えや判断を大切にし、それを生かす場をあたえること。（自己決定）

視点3 児童が、自分は役立っていると感じられるような体験をすること。（自己貢献感）



生活アンケートの実施

～ 学習の基盤づくり

起床・就寝・朝食など
基本的な生活習慣の確立

学習の準備の徹底

読書等、宿題以外の学習習慣作り

保護者・地域との連携

学力向上拠点形成事業

本校は今年度より3カ年に渡り文部科学省「学力向上拠点形成事業」（確かな学力育成のための実践研究事業）の指定を受け、現在これに取り組んでいる。

これは知識・技能に加えて、関心・意欲などや思考力・判断力などや表現力などを総合的に育み「確かな学力」の向上を図るための事業である。またこれにより、既習の知識・技能等が、実生活で活用できる力も視野に入れたものである。さらにこの事業は、その成果を近隣の学校や地域において、広げていくための取り組みでもある。

前研究との関係

平成13・14年度の石川県教育委員会・旧内浦町教育委員会「心の居場所づくり」研究では、その成果をあげることができ、研究発表後もこれまで継続的にこれに取り組む、「カウンセリングマインドを生かした学校づくり」を基調とした教育活動を展開してきた。また3年前からは、その発展形として特に学習面では、以前からの取り組みによって形成される望ましい人間関係を生かして、課題解決学習を授業に取り入れることを試みてきた。この課題解決学習のねらうところは、児童自らが課題とその解決の方策を見つけることにより学習意欲を高め、学習を進める中で思考力・判断力を培い、また意見交換や学習成果を発表する際の表現力を伸ばすことにある。

また一方、カウンセリングマインドだけでは達成できない、人間形成・集団としての成長の柱として、「人として不易な生活習慣の徹底」を取り入れ、「学級の耕し」を基盤に、優しさと厳しさの両面からの児童の成長の支援としてきた。

研究の成果

まず、教師が変わりつつある。研究授業を年4回とし、その立ち上げとして5月に第1回目を全員が行ったことは画期的であった。また研究授業ごとに課題解決授業分析表をもとに自身の授業について反省し、授業の工夫・改善に向けて取り組みを進めることができたのは、大きな前進である。

現在も校内研修は進行中であるが、指導案を何度も書き直し、課題解決学習に挑戦する教師もいる。また個人研究テーマを校内研修年間計画の中に位置づけプログラムさせた取り組みも、個人研究テーマの自己評価と校内研修の深まりに大いに関与していると言っても過言ではないだろう。

次に、児童が変わりつつある。児童の願いや思考にそった課題の設定、課題解決学習過程の構成は、学びの質を向上させている。「学びの過程分析表」に見る児童の意欲、思考・判断力、表現力は確実に向上している。また漢字や計算といった面においても、90点以上の合格者は95%となり、昨年を大きく上回る成果をあげている。

町村合併や白丸小学校の児童を迎えての“新”能登町立松波小学校に、今年度より3カ年、文部科学省より『学力向上拠点形成事業・確かな学力育成のための実践研究事業』の指定を受けました。

子どもの学力向上には、教師の指導力の向上が不可欠であるとして、本校なりに組織的な課題解決学習の充実を図ってまいりました。

今回の第1回中間発表会にご参会の皆様の貴重なご意見を参考にしながら、18年度の第2回中間発表会、そして19年度の本番の研究発表会へと地道に研究を継続していきたく思います。

この間、数々のご指導ご援助を戴きました奥能登教育事務所並びに能登町教育委員会、そして関係の皆様深く感謝申し上げます。

学校長 中谷 清登